

| 論文審査の結果の要旨および担当者 | |
|---|--|
| 学位申請者 | 垣田 寛人 |
| 論文担当者 | 主査 石原 正治 |
| | 副査 芳川 浩男 |
| | 副査 坂口 太一 |
| 学位論文名 | Impact of Endovascular Therapy in Patients With Large Ischemic Core Subanalysis of Recovery by Endovascular Salvage for Cerebral Ultra-Acute Embolism Japan Registry 2 (広範囲虚血性コアを有する患者に対する血管内治療の効果； RESCUE-Japan Registry 2 サブ解析) |
| 論文審査の結果の要旨 | |
| <p>急性脳主幹動脈閉塞症に対する血管内治療に関して、脳虚血コアの範囲が限定的な内頸動脈または中大脳動脈 M1 部閉塞を有する患者については十分なエビデンスがあり、ガイドラインでも推奨されている。しかし、広範囲脳虚血コアを有する患者における効果は不明である。そこで申請者は、本邦における発症後 24 時間以内の急性脳主幹動脈閉塞症のレジストリ研究 (RESCUE-Japan Registry 2) のデータを用いて、その有用性と安全性を検討した。対象は RESCUE-Japan Registry 2 に登録された 2,420 例のうち、内頸動脈または中大脳動脈 M1 部閉塞を有し、かつ治療前の非造影 CT または MRI 拡散強調画像にて The Alberta Stroke Program Early CT Score (ASPECTS) 0~5 点であった広範囲脳虚血コアを有する患者 504 例とした。そのうち 172 例 (34.1%) に血管内治療が施行され (血管内治療群)、332 例 (65.9%) には血管内治療が施行されなかった (非血管内治療群)。主要評価項目は 90 日後の転帰良好患者 (modified Rankin Scale 2 以下) の割合とし、安全性評価項目は全脳出血と症候性脳出血 (National Institutes of Health Stroke Scale 4 点以上の悪化) の発生率とした。その結果、90 日後の転帰良好患者は非血管内治療群よりも血管内治療群で有意に多く認められ、また全脳出血、症候性脳出血ともに両群で有意差を認めなかった。</p> <p>本研究では、広範囲脳虚血コアを有する患者においても血管内治療群の転帰が良好であり、出血率も同等であることが示された。本研究の成果は広範囲脳虚血コアを有する急性脳主幹動脈閉塞症に対する血管内治療の有効性に関して重要な知見を与えるものと判断され、学位授与に値すると評価した。</p> | |